

平成28年度
広島市教育センター

小学校国語科第5学年における 自分の考えが伝わるように書く力を高めるための指導の工夫 —「つながり・仲間分けシート」の開発と活用を通して—

広島市立宇品東小学校教諭 田村 央子

研究の要約

本研究は、小学校第5学年の児童に対して、自分の考えが伝わるように書く力を高めるための指導の工夫について考察したものである。

難波(2006)は、多くの人が深く納得するためには、『理由—主張』の適切さが基準であるとし、そのためには、「理由—主張のつながり」と「理由のカテゴリー」に着目する必要性を述べている。

そこで、本研究では「理由—主張のつながり」の適切さを吟味し、「理由のカテゴリー」を増やすための手立てとして、「つながり・仲間分けシート」を開発し、その活用を通して、児童に「自分の考えが伝わるように書く力」を高めることができたかを検証した。

評価問題や作品の分析の結果、児童は自分の考えが伝わるように書く力が向上し、指導の工夫の有効性が示された。さらに、理由と主張のつながりの弱さを改善した「つながり・仲間分けシート」を作成した。

キーワード：主張と理由のつながり，理由のカテゴリー，
「つながり・仲間分けシート」の開発と活用

I 問題の所在

「教育課程部会国語ワーキンググループ資料10」には、国語科の現状と課題として、学力は改善傾向にある一方で、判断の根拠や理由を示しながら自分の考えを述べることに引き続き課題があると指摘されている。

また『平成27年度広島県学力調査報告書』教科の調査結果の分析から、平成27年度「基礎・基本」定着状況調査における「複数の資料から必要な情報を取り出し、それらを関係付けて論理的に説明する」¹⁾に関する問いの正答率は47.5%、平成27年度全国学力・学習状況調査における「コラムの中で筆者が引用している言葉を書き抜く」²⁾に関する問いの正答率は22.1%であったことが分かった。これらは共に正答率が最も低いと挙げられ、自分の考えを根拠や理由を示しながら論理的に述べる力に課題があることが明らかとなった。

自己の実践においても書くことについて振り返ると、先に示した2点についての課題が見られた。

1点目は、『小学校学習指導要領解説国語編』第5学年及び第6学年「書くこと」の指導事項「エ 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書くこと」³⁾の指導についてである。これまで、「引用する」や「図表やグラフを用いる」ことについて、使い方の方法を習得させることに力を入れ、相手に自分の考えを明確に伝えるという意義を考えさせる指導をしていなかった。

2点目は、児童への「書くこと」の指導についてである。児童が書いた作文を読んでも、思いや主張を書くことはできていた。しかし、書いた内容を分析すると、思いや主張の羅列で終わっているものが多く、読み手に考えが明確に伝わるような書き方になっていないことが明らかになった。このことから、根拠や理由が備わった説得力のある書き方の指導をしていなかったことが分かった。

そこで、根拠や理由を示しながら、自分の考えが伝わるように書く力を高めるための指導の工夫を探ることとした。

II 研究の目的

小学校国語科第5学年において、自分の考えが伝わるように書く力を高めるため、「つながり・仲間分けシート」の開発とその活用を通じた指導の工夫を行い、その有効性を探る。

III 研究の方法

- 1 研究主題に関する基礎的研究
- 2 研究仮説及び検証の視点と方法
- 3 検証授業の計画と実施
- 4 検証授業の分析と考察

IV 研究の内容

1 研究主題に関する基礎的研究

(1) 「自分の考えが伝わるように書くこと」とは

難波(2012)は、「日本の国語教育では、書くことの教育において、(中略)論理を重視しないため、混乱が起こってしまうことがある。(中略)主張だけしては人に伝わらないのは当然である。」⁴⁾と述べており、論理を重視することの必要性を示している。

難波(2006)は、論理の定義の一つとして、「理由と主張のつながり」⁵⁾を挙げており、そのつながりを適切に判断することが重要であると述べている。適切にとは、「主張そのものではなく理由と主張のつながりが適切か」⁶⁾「どれだけ多くの人が深く納得するか」⁷⁾としている。

そこで、本研究では「自分の考えが伝わるように書くこと」を「主張と理由を明確に書き、そ

の関係が適切に結ばれている」とする。

(2) 「主張と理由のつながり」と「理由のカテゴリー」とは

難波 (2006) は、『理由—主張』の適切さは、相対的なものである、つまり、人によって異なる⁸⁾、理由と主張のつながりが適切かどうかは、「どれだけ多くの人々が、深く納得するかにかかっている」⁹⁾と述べている。図1¹⁰⁾に示すように、多くの人を深く納得させるために必要なものは、「理由の量を増やす」「理由のカテゴリーを増やす」「理由の質を上げる(個人的→一般的→独自の)」としている。

特に、第5学年においては、「理由のカテゴリー」を複数用いること、つまり理由の由来が複数あることが必要であると述べている。

このことを受けて、本研究では、「理由—主張のつながり」を吟味し、「理由のカテゴリー」を増やすためのワークシートを開発し、活用を通して、「主張と理由のつながり」、「理由のカテゴリー」に着目した記述ができるような指導の工夫を行うこととする。

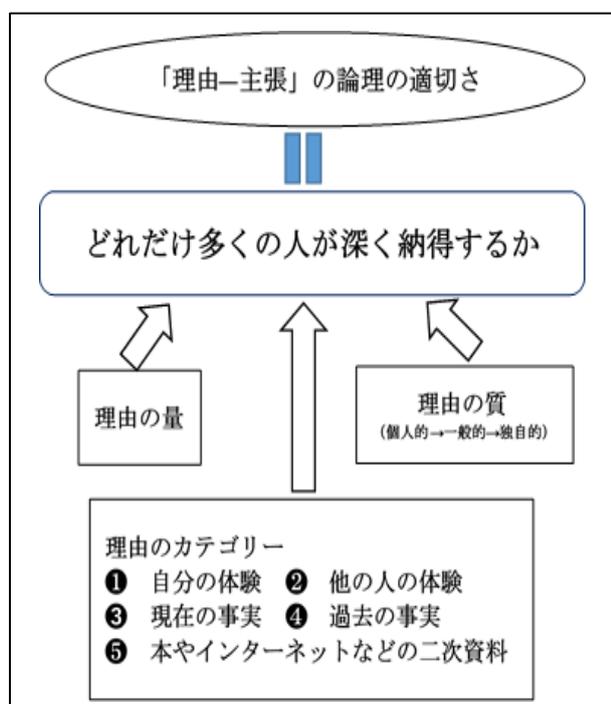


図1 『理由—主張』の適切さを決めるもの」難波 (2006) 『楽しく論理力が育つ国語科授業づくり』より引用

2 研究仮説及び検証の視点と方法

(1) 研究仮説

小学校国語科第5学年において、「主張と理由のつながり」と「理由のカテゴリー」を吟味する「つながり・仲間分けシート」を開発し、その活用を通じた指導を行えば、自分の考えが伝わるように書く力が高まるであろう。

(2) 検証の視点と方法

表1は、検証の視点と方法についてまとめたものである。

検証の視点は、二つ設ける。視点1は本研究で付けたい力に関するもの、視点2は本研究における指導の工夫に関するものである。

次に、検証の方法について述べる。3頁表2、図3は評価基準と評価テストの具体を示したものである。

評価テストは自作のものであり、難易度の検定を行っていない。そのため、事前・事後は同一の問題を行うこととする。

評価テストは「主張と理由を書く」について見取る問題である。「主張と理由から考えが伝わるか」「理由が充実しているか」「資料を適切に選ぶことができるか」について見取ることを意図とした。

表1 検証の視点と方法

	検証の視点	検証の方法
1	自分の考えが伝わるように書く力を高めることができたか。	評価テストの分析、 企画書の分析
2	「つながり・仲間分けシート」を活用した指導は、自分の考えが伝わるように書く力を高めるために有効であったか。	「つながり・仲間分けシート」ステップ3・4・5・6の分析・発話 評価テストの分析

検証には、学習のまとめとなる給食リクエスト企画書も評価対象とすることとした。3頁図2は給食リクエスト企画書の様式である。本単元で身に付けさせたいア～エに対応した書式にすることで、学習者自身にも、また、評価者(授業者、校長、栄養士ほか)にも評価するポイントが分かるように工夫した。

3 検証授業の計画と実施

(1) 検証授業

期 間：平成 28 年 9 月 8 日～16 日

対 象：小学校第 5 学年 29 名

単元名：資料を生かして考えたことを書こう
～給食のおかずをリクエストする企画書を作成しよう～

目 標：自分の考えが伝わるように書く

学習計画：表 3 に示す

(2) 指導方法の工夫

「つながり・仲間分けシート」の開発と活用

難波 (2006) の考えを援用し、「理由と主張のつながり」の適切さを吟味し、「理由のカテゴリー」を増やすための手立てとして「つながり・仲間分けシート」の開発を行った。

開発に当たっては、まず、「理由と主張のつながり」、「理由のカテゴリー」を段階的に意識できるように八つの学習過程として整理し、それに対応するようにシートを作成した。

また、児童が理解できるように、「理由と主張のつながり」を「つながりの技」、「理由のカテゴリー」を「仲間分けの技」と名付けた。(5 頁 図 4)

ア 主張と理由のつながり

(ア) 指導の目的

主張につながる理由を書くことができるようにする。

(イ) 指導方法の具体

- ・ 主張につながる理由にするためには、主張と理由、理由同士の双方のつながりを確認することが重要であることを確認する。
- ・ 理由を重ね合わせたり、追加したりするために付箋にキーワードを書く。
- ・ 吟味する際に視覚的に整理できるようにチェック表に記録する。

イ 理由のカテゴリー

(イ) 指導の目的

複数からなる充実した理由を書くことができるようにする。

表 3 学習計画(全 7 時間)

次	時	学習内容
一	1	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「給食リクエスト企画書」のサンプルを提示し、学習の見通しをもつ。 ○ 主張と理由の関係について理解する。 ○ 「つながり・仲間分けシート」 ステップ 1・2 <ul style="list-style-type: none"> ・ 提案するメニューを決める。 ・ 提案するメニューの理由を書く。
二	2	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「つながり・仲間分けシート」 ステップ 3・4 自分が選んだ主張(メニュー)について、吟味しながら理由を書く。 ・ 提案するメニューの理由を決める。 ・ 理由が重なっていないかを確認する。 ・ 理由を分かりやすく書き直す。
	3	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「つながり・仲間分けシート」 ステップ 5 充実した理由にするために、「理由の仲間」に分ける。
	4	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「つながり・仲間分けシート」 ステップ 6 理由のカテゴリー⑤を書く。
三	5・6	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「つながり・仲間分けシート」 ステップ 7・8 <ul style="list-style-type: none"> ・ 提案メニューとその理由を決める。 ・ 「給食リクエスト企画書」を完成させる。
	7	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「給食リクエスト企画書」をグループごとに交流し、より良い企画書を選ぶ。 ○ 学習後の感想を書く。 ○ 事後テストを行う。

(イ) 指導方法の具体

- ・ 「理由のカテゴリー」を参考にして複数の理由を付けられるようにする。
- ・ 理由のカテゴリー⑤は必ず使わせる。
- ・ 資料を引用したり、図表やグラフを用いたりするときには、引用する部分を「」でくくるとか、図表を用いる場合は、本文に「図 1 は、～」という本文との関連を示すことを確認する。

(3) 指導の実際

ア 「つながり・仲間分けシート」

本シート（図4）を企画書作成のための構想シートとして提示し、4頁表3のような全7時間の授業を行った。ステップ3・4では、理由

を付箋紙に書かせ、書き直したり貼り直せたりするようにした。ステップ5・6では、本単元の指導事項を達成させるため、理由のカテゴリー⑤は必ず使うように設定した。

企画書作成のための8つのステップ		企画書作成のための「つながり・仲間分けシート」 企画者()	
	ステップ	達成したい内容	
	ステップ1	提案するメニューを決める。	ステップ1
	ステップ2	提案するメニューの理由を決める。(3つ以上)	
つながりの技	ステップ3	理由が重なっていないかを確認する。 ① 同じ理由にまとめられないか見比べる。 ② 理由が減った人は理由を増やす。	ステップ2
	ステップ4	理由を分かりやすく書き直す。 ① 具体的にする。 ② 言いかえる。 ③ 例を挙げる。	
仲間分けの技	ステップ5	理由の仲間に分ける。 ① 自分の体験 ② 他人の体験 ③ 現在の事実 ④ 過去の事実 ⑤ 本やインターネットなどの二次資料	ステップ3
	ステップ6	理由の仲間 ●を書く A: 題やキャプションに書目する。 B: グラフの数値や項目に書目する。 C: 文章や言葉は正確に「」を使って引用する。 D: 選んだ資料の名前を使って考えをまとめる。	ステップ4
	ステップ7	提案メニューとその理由を決める。	ステップ5
	ステップ8	給食リクエスト企画書を完成させる。	ステップ6
			ステップ7

ア	イ	ウ	エ
	ア とちがう	ア、イ とちがう	ア、イ、ウ とちがう
分かりやすい	分かりやすい	分かりやすい	分かりやすい
理由の仲間	理由の仲間	理由の仲間	理由の仲間
選んだ資料	選んだ資料	選んだ資料	選んだ資料
資料名	資料名	資料名	資料名
決定	決定	決定	決定

図4 「つながり・仲間分けシート」

4 検証授業の分析と考察

(1) 自分の考えが伝わるように書く力を高めることができたか。

ア 評価テストから、「主張と理由から考えが伝わったか」について事前と事後の比較

主張と理由から考えが伝わったかを評価テストから分析した。図5を見ると、B基準に達している児童は、事前に比べると6名増えている。これらの児童は、「高学年の人が喜びそう」という条件に合わせた主張と理由を書くことができている。さらに、理由の内容も根拠となる資料を適切に使うなど充実した記述が増え、読み手が納得する考えを記述していたことがうかがえた。一方、B基準に達していない児童は4名いた。4名の解答を見ると、主張に対して理由が適切でない、根拠が事実と反し、納得できにくい内容である、答え方が違うという状況であり、更に指導を重ねる必要があると考えられる。

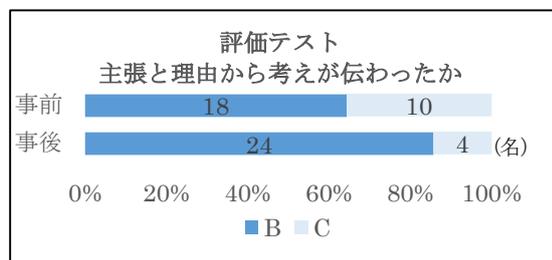


図5 評価テストの事前・事後の結果

イ 給食リクエスト企画書の評価の分析

給食リクエスト企画書の評価は、給食リクエスト企画書を提出する相手である栄養士、授業者及びその他の教員3名が読み、納得できる企画書になっていたかについて評価した。

29名全ての児童が、主張と理由のある給食リクエスト企画書を書くことができた。

しかし、詳しく分析すると、表4に示すように、4名の児童は、主張と理由は書くことができたものの、相手が納得する主張と理由を書くことができていなかった。4名の児童の企画書は、「理由の内容に一貫性がない」、「主張につな

がる理由とその根拠となる資料が異なる」という特徴があった。つまり、理由と主張のつながりの適切さに課題があることが分かった。

表4 給食リクエスト企画書の評価

評価	B評価	C評価
評価基準	読み手が納得する主張と理由を書いた企画書になっている	読み手が納得する主張と理由を書いた企画書になっていない
人数	25	4

ア、イの分析により、児童は「①主張と理由を書く、②充実した理由を書く、③理由が主張に適切につながっているように書く」ことを意識して自分の考えを書いていたことが明らかになった。自分本位の理由ではなく、相手も納得できる理由を書くことができたと考えられる。以上のことから、概ね、児童は、自分の考えが伝わるように書く力を高めることができたと思える。

一方で、今回は授業の中で交流を設定し、相手の作品を吟味させたが、自分自身の書いたものを吟味する時間は十分取れなかった。

今後は、書いたものを「①主張はあるか、②主張につながる適切な理由であるか、③多くの人が納得できる理由であるか」の視点を自分自身で吟味する学習の方法の獲得と、相手意識をもって理由を書く習慣を身に付けさせることが必要だと考える。

(2) 「つながり・仲間分けシート」を活用した指導は、自分の考えが伝わるように書く力を高めるために有効であったか。

ア ステップ3・4 主張と理由のつながり

(ア) ステップ3・4で書いた理由の評価

表5 「つながり・仲間分けシート」ステップ3・4で書いた評価

評価	A評価	B評価	C評価
評価基準	理由の内容を吟味して4つ書いている	理由の内容を吟味して書いている	理由の内容を吟味して書いていない
人数	4	25	0

6頁表5に示すように、29名全ての児童が、「つながり・仲間分けシート」ステップ3・4において付箋紙に書いた複数の理由を同じ言葉に着目して理由を重ね、整理することができた。

4) ステップ3・4での発話

図6は、ステップ3・4におけるペアでの発話の様子を示したものである。発話から次のことが分かった。E児とF児は、①理由が重なっ

てないかを確認する、②理由を分かりやすく書き直し理由を整理する、という視点をもって、「つながり・仲間分けシート」を書く活動を進めている様子が見られた。

つまり、「理由をたくさん書く→理由を修正する→理由を書き加える」という作業を、友達と交流しながら繰り返すことで、理由を修正し、より良い理由を増やしていたことが分かった。

ステップ3・4 つながりの技

- ① 理由が重なっていないかを確認する
- ② 理由を分かりやすく書き直す

網掛け部分
「つながりの技」の視点①「重なり」を意識して、理由を吟味している。

四角囲みの部分
「つながりの技」の視点①で理由を吟味する際、キーワードを用いている。

E児： ラーメンはみんなが好きなメニュー。うん、これは同じだ。

F児： ねえねえ、これって、こしがあるところが好きってことはさ、好きだからおいしいと思うことでしょ。

これもおいしいとかばっかりだから一緒にしてもいいんじゃない。

E児： ああ、そうか。ありがとう。

F児： ほら、おいしいって書いてあるから、一緒にしてみたら

E児： うーん、めんとスープが絡んでいるからおいしい・・・

うーん、絡んでいるからおいしいから・・・どうしようかな。

F児： あのね、今ね、こことここをね、一緒にしようか悩んでいるの。

E児： 学校の給食であまり出ないってところ？

F児： メニュー、メニューって出てるじゃん

E児： だから、まあ、あまり出ないからみんなの人気になっているんじゃないのかな。

F児： ああ。じゃあ一緒にした方がいいのかなあ。

E児： 一緒にする？

F児： うん。

E児： 一個重なったよ。

F児： 重ねたりしてみたよ。

E児： めんとスープが絡んでいるからとてもおいしい。それはふつうだからこのままでもいいや。

E児： Mさん、もういい感じだよ。

F児： うーん、もう少し理由を増やしてみようかな。何がいいかな。
家でもさ、ラーメンって食べる人多いのかな？

E児： はい。結構食べるよ。ラーメンおいすぎる。

F児： あっ、みんな手軽に食べられるって言うのは？

E児： あっ、そうじゃ、いいこと思いついた。まあ、ここと同じだけど、みんなで食べる。

F児： えっでもさ、手軽に食べられるってことはさ、みんなが食べられるって言うことと同じことかなあ。

E児： うん。食べられる？ああ。

F児： じゃあ、一緒かなあ。

理由が重なっていないかについて、確かめている。

理由を分かりやすく書き直そうとしている。

図6 ステップ3・4における視点をもって書いた理由を吟味している様子

(ウ) ステップ3・4の振り返りカードの記述

図7に示すように、29名中26名の児童が振り返りカードに以下のように記述していた。

- ・ 理由を書いた後に重なっていないかを確かめたら、まとまった理由を多く書けるからやっと思いこうと思いました。
- ・ よく探してみると同じことを言っているものが多くてまとめてみたらすっきりした。
- ・ 同じ意味の言葉があつたら一緒に重ねることが分かりました。
- ・ 理由の内容をよく考えてみて、意味が似ているものを見比べようと思います。

このように「理由の見直しの重要性」を多くの児童が述べていることから、理由と理由の関係を意識して吟味することで、理由を整理することができ、その作業が自分の考えが伝わるように書くために必要であると実感していることが分かった。

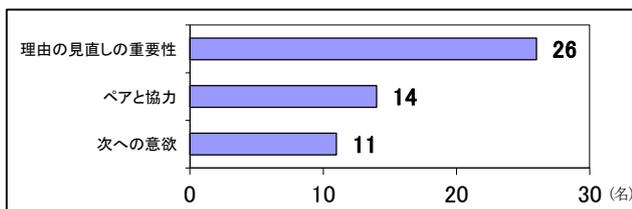


図7 ステップ3・4における振り返りカードの主な記述の種類

イ ステップ5・6 理由のカテゴリー

(ア) ステップ5で書いた理由の仲間分けの評価

「つながり・仲間分けシート」のステップにおいて29名全員が、自分の書いた理由を「理由のカテゴリー」に照らして、分類しながら「理由のカテゴリー」番号を書くことができた。

自分の書いた理由が、「理由のカテゴリー①自分の体験」のみであった児童は、「理由のカテゴリー」を参考に、理由の加筆をし、「理由のカテゴリー」を増やす作業を行った。

(イ) ステップ5・6での発話

9頁図8、図9は、給食リクエスト企画書のグループ代表選出の話し合いの様子である。話し合い当初、J児とK児は資料の内容について

詳しく書いている理由のある企画書を選ぼうとしていた。しかし、次第に資料は「理由のカテゴリー」の一つであり、複数の「理由のカテゴリー」が書かれている企画書の方が、読み手が納得しやすいのではないかと気付いた。そして、同じグループのL児とM児も、どのような企画書が良い企画書であるかに目が向いた。最終的に、「理由のカテゴリー」に着目し、グループみんなでグループの代表を選んだ。

ウ C評価の児童の分析

評価テスト「理由の充実 ②理由のカテゴリー」において事後にB基準に達しなかった児童の解答から次のことが分かった。

評価テストに示している二つの【注意】について双方使えなかった児童は28名中4名であった。4名の解答は10頁表6に示す。

さらに、この4名について10頁表7、表8に示すように振り返りカード、給食リクエスト企画書の分析を行った。4名ともに、理由のカテゴリーを使った理由を書くことの大切さは分かっていたが、指示がなければ意識して書けないことが分かった。

以上ア、イ、ウより、「つながり・仲間分けシート」を活用した指導をすることは、自分の考えが伝わるように書く力を高めるために概ね有効であったと考えられる。特にこのシートを活用する中で、他者の存在を意識し交流することが重要であることが再認識できた。児童の振り返りでは、「友達のアドバイスで自分の理由をよりよいものにすることができた」、「文章を書くことが苦手だったけど、困ったら友達の意見を引用したり、話したりしたらいい文章になった」、「伝わらなかつたけど、皆に言われて伝わらないことが分かった」などが多くあり、相手に説明することやアドバイスをすることについて児童自身も有効であったと捉えている。今後も計画の中に組み込んでいきたい。

一方、今回の分析の中で、「理由のカテゴリー」を増やすことと比較すると、「主張と理由のつながり」については課題が残った。これは、理由同士のつながりを吟味することに注力し

ステップ5・6 仲間分けの技

- ① 理由の 카테고리に分ける
- ② 理由の 카테고리⑤を書く

網掛け部分

「仲間分けの技」の視点①「理由の 카테고리」を意識して、理由を吟味している。

J児： もっと詳しく言ったらさ、5種類入っていますとか、
 ~にも書いてありますとか、すっごく詳しく資料のこと
 書いているからいいかな。

K児： 私も探そう。

J児： じゃあ、線とか引いてみる？

資料の内容を詳しく書いているものを良い企画書だと考えている。

(代表選びになると・・・)

L児： 線がいっぱいあって、いいところがいっぱいの2人のがいい
 んじゃない？資料についてたくさん書いてある。

J児： これ、資料について書いてある？

K児： ううん、書いてない。

J児： ないよね。

L児： まあ、二人のは、いいところがあるよ。

J児： ①②③④⑤あるじゃん。それ、入っている？

K児： 入っているところ、みんな確認して。

M児： ああ、おれないなあ。だめだ、全部はない。

J児： ○○さんの②友達のがない？

K児： うん。私のもない。

えっと、これは、「私」だから・・・① 「友達」は・・・②
 「現在」の③は、こっちにはあるんだけど、二人ともないね。

理由の仲間が複数使われているものを良い企画書だと考えが変わってきている。

図8 「理由の 카테고리」に着目してグループの代表を選んでいる様子①

図9 「理由の 카테고리」に着目してグループの代表を選んでいる様子②

グループ代表選出検討時に書いた書き込み
 理由の 카테고리を意識

導入時に書いた書き込み
 資料重視

てしまい、理由と主張のつながりを吟味する活動が十分仕組めなかったことに起因すると考える。「主張と理由のつながり」を意識して書くことのできる「つながり・仲間分けシート」の改善が必要だと考え、具体的な案を提示したい。

表6 評価テスト「理由の充実 ②理由の 카테고리を使った理由」の事後においてB基準に達していなかった児童の解答

解答類型	児童	事後
ない 【注意1】 「理由の 카테고리」 ①④ができてい	A 児	歴史の本を選んだ理由は、中学年だと3位だし、歴史の本は150冊から200冊の間で読まれている回数も、何冊あるかも、ほとんど最後のほうだからこの歴史の本を増やした方がいいと思いました。
	B 児	ぼくがなぜ歴史の本を選んだかと言うと、資料②を見ると中学年では52冊、高学年では88冊です。なので合計140冊で資料③を見ると歴史の本は160冊近くしかなく、あまりが少なくなるからです。
	C 児	高学年の1週間の貸し出し冊数ランキングで1位だからです。しかも図書室にある本も中高学年向けの物語の半分以下だから日本の歴史がいいと思います。
「理由の 카테고리」 ⑤	D 児	理由は、スポーツの本を読んだら野球とかサッカーとかバスケットボールとか色々なスポーツのやり方が分かったり色々な遊びが分かるからです。そうすれば、外で遊ばない人も興味をもって外で遊べるからです。新しい本も増えると図書室を利用する人数が増えるからです。

表7 評価テスト「理由の充実 ②理由の 카테고리を使った理由」の事後においてB基準に達していなかった児童の振り返りカードの記述

児童	振り返りカードの記述
A 児	どういう風に具体的かとか、何が詳しいのかを伝えた方が友達も分かるいい文章が書けることが分かりました。今度企画書を書くときは <u>具体的に</u> 書いて <u>詳しく</u> 書きたいです。
B 児	資料を使えば相手が見ても分かるように書けた。次回の学習でやってみたいことは、 <u>資料</u> をもっと見て、もっと書きたい。
C 児	資料を使えてなくてどのようにすれば良いか分からなかったけど、使えるようになると理由が書きやすくなった。次の学習では、 <u>資料</u> を <u>しっかり</u> 読み理解を深めて理由を書きたいです。
D 児	資料を選んだり、どうやって書こうかなとまよったりしました。理由をもう少し増やしたいです。

表8 評価テスト「理由の充実 ②理由の 카테고리を使った理由」の事後においてB基準に達していなかった児童の分析結果からの考察

できていない。理由の 카테고리①④の不足	資料から分かることを理由の中に入れて書くことができていない。理由の 카테고리①④の不足	A 児、B 児、C 児の解答には、理由の 카테고리⑤本やインターネットの二次資料のみが書かれている。資料に示された数値や題名を用いるなど、相手を納得させるために資料を積極的に活用していることが分かる。これは、直前までの学習において理由の 카테고리⑤を使った学習をしており、理由を考える際に資料を用いると、自分の考えが伝わりやすくなるという良さを強く感じていたためだと推測される。 特に、B 児、D 児が個人的な理由から一般的な理由へと変化しているのは、相手を意識した理由を考えるようになったためだと考えられる。
できていない。理由の 카테고리⑤の不足	資料に書かれている情報以外を入れた理由を書くことができていない。理由の 카테고리⑤の不足	D 児の解答には、理由の 카테고리①自分体験のみ書いている。しかし、理由の内容をよく見ると、「外で遊ばない人」「図書室を利用する人数」など、他者を意識した理由を書いている。また、事前には「いろいろな種類のスポーツ」と表現していたものが、「野球とかサッカーとかバスケットボール」といった具体的な表現へと変わっている。 この2点から、相手を納得させるために、理由の 카테고리②他の人の経験、③現在の事実を含んだと文章を書いたと推測され、直接的な表現ではないが、理由の 카테고리を意識した理由を書いていると考えられる。

V 研究のまとめ

1 成果

開発した「つながり・仲間分けシート」の活用により、児童は概ね自分の考えが伝わるように書く力を高めることができた。

この「つながり・仲間分けシート」には、自分の考えが伝わるように書くために二つの効果があったと考える。

一つ目は、主張と理由を整理しながら端的に書くことができる点である。

二つ目は、「理由の 카테고리」を意識させる

ことで、理由の幅が広がり、理由を多く書くことではなく、理由の内容にこだわって書くことができるようになった点である。

2 課題と今後の展望

課題は、「つながり・仲間分けシート」ステップ3・4が、理由の整理を図る内容になっており、主張と理由のつながりを吟味する機能が弱かった点である。「主張と理由が適切に関連付けられているかどうか」について、全ての学習活動の中において、見直したり、意識したりする場面が少なかった。そのため児童がどれほど「主張と理由のつながり」を意識し、記述を行っていたかについて正確に捉えることが難しいという課題が残った。「主張と理由のつながり」を意識して書いていくことができるように、「つながり・仲間分けシート」を改善することが必要だと考え改善版を作成した(12頁図10)。改善版の有効性について今後検証していきたい。

引用文献

- 1) 『平成27年度 広島県学力調査報告書』広島県教育委員会, 平成27年, 7頁
- 2) 前掲書 2), 15頁
- 3) 文部科学省『小学校学習指導要領解説国語編』東洋館出版社, 平成20年, 81頁
- 4) 難波博孝「学習指導要領から考える, 書くことの授業づくり」『国語科授業論叢 第5号』学思会 ゆいの会, 2012年, 4頁
- 5) 難波博孝『楽しく論理力が育つ国語科授業づくり』明治図書出版株式会社, 2006年, 21頁
- 6) 前掲書 5), 26頁
- 7) 前掲書 5), 28頁
- 8) 前掲書 5), 29頁
- 9) 前掲書 5), 29頁
- 10) 前掲書 5), 28頁

参考文献

- ① 確かな学び豊かな学び滋賀の学び「授業改善のための指導例と評価問題, ワークシート」滋賀県学力向上委員会, 国語調査部会, 平成25年
- ② 中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会「教育課程部会国語ワーキンググループ資料 10」文部科学省, 平成27年
- ③ 難波博孝『楽しく論理力が育つ国語科授業づくり』明治図書出版株式会社, 2006年
- ④ 『広島県学力調査報告書』広島県教育委員会, 平成27年

企画書作成のため6つのステップ

ステップ	達成したい内容	
ステップ1 【主張】	提案するメニューを決める	
ステップ2 【理由の量】	提案するメニューの理由を決める（3つ以上）	
ステップ3 【理由の カテゴリー】 ↓ 【理由の質】	提案するメニューとその理由が つながっているかを確認する ① 提案するメニューのよさが 伝わる理由になっているかを 確かめる ② つながっているサインを3段階 で残す ◎ ○ △ ③ 友達に確認してもらう	理由の仲間に分ける ① 理由が重なっていないか理由の 仲間に分ける ② 理由が減った人は理由を増やす 理由の仲間 ⑤のこつ A 題やキャプションに着目する B グラフの数値や項目に着目する C 文章や言葉は正確に「」を使っ て引用する D 選んだ資料の名前を使って考え をまとめる
		つながりの技 ←→ 仲間分けの技
ステップ4	提案メニューとその理由のつながりの最終チェックをする ① 提案メニューに対し、多くの人が納得する理由になっているか 確かめる ② つながっているサインを3段階で残す ◎ ○ △ ③ 友達に確認してもらう	
ステップ5	提案メニューとその理由を選ぶ	
ステップ6	給食リクエスト企画書を完成させる	

● 本研究における課題

「つながりの技」の中に理由の整理（重なり）が含まれていたため、児童を混乱させてしまった。

また、児童が、「つながりの技」を先にする必然性を感じられていなかった。

□ 改善策

「提案するメニューと理由のつながり」と「理由の充実」の区別が明確になるように改善した。

また、「提案するメニューと理由のつながり」と「理由の充実」の順序性をなくし、ステップ3に並列に配置した。「提案するメニューと理由のつながり」と「理由の充実」は、どちらからでも取り組むことができるようになり、さらに往還して考えられるように設定した。

● 本研究における課題

主張と理由がつながっているかを確認する場面がステップ3「つながりの技」のみであった。

□ 改善策

「つながりの技」「仲間分けの技」の後、全体を客観的にチェックする機能が必要と考え、ステップ4を新たに設定した。

図10 「つながり・仲間分けシート」（改善版）